

鈴木重行 編

触診術 (ID : Individual Muscle Palpation)

首藤 貴 (愛媛県立中央病院リハビリテーション部)

これまでになかった一書

本書は、1999 年に出版された「ID ストレッチング」に続く筋理学臨床（体幹・上肢・下肢）の基礎となる著書である。

触って筋肉を知るための著書が欧米では出版されていたが、何故日本にはこの種の書物がないのだろうとこれまで羨ましく思っていた。そんな思いの中、今回やっとわが国で出版された。

運動器の特に筋肉の異常を診る場合、“おおよその場所”ではなく“個別に走行する筋肉”を正確に触れて・診る、いわゆる触診術が必要となる。指先にて、皮膚の上から深部の筋肉の状態を診る術を会得することが運動器を扱う者に必要となる。

編集者鈴木重行先生（名古屋大学医学部保健学科教授、日本ペインリリース研究会代表世話人）は、運動器疼痛の臨床およびその基礎研究を行う理学療法法の第一人者であり、本書の各所に先生の哲学を感じることができる。

本書の特徴は、

- ① 多くのカラー写真を使い、内容を正確に理解し易い。
- ② 筋触診術を会得し易いように、そのポイントが各ページに説明されている。
- ③ 共著者（平野幸伸氏、鈴木敏和氏）と工夫し合い、読者に優しく作成されている。

本書を、是非お手元に置いて利用して頂きたい。きっと新しい知識を身に付けることができると確信している。

鈴木先生は兵庫県立総合リハビリテーションセンター、フォルマルスタイン整形・リハビリテーションセンター（ドイツ連邦共和国）で私と同じ職場を経験して以来、先生の疼痛に関する臨床・基礎の研究内容は段々と冴えてきている。この道のリーダーとしてさらに活躍されることを期待しているところである。

[A4 頁 202 6,300 円（本体 6,000 円＋税 5%） 2005 三輪書店 刊]